

心とした入出力装置が圧倒的に優れているのがわかる。計算機の方は、最近では我国でも次第に手軽に利用できるようになって来たが、入出力装置は皆無に等しい。今後は、FSSのような高性能入出力装置を、画像処理関係の各分野で充実させてゆくことが必要である。

VIII おわりに

画像処理についての簡単な解説と、天文学への応用の可能性について述べた。これを書くにあたって、東京大学生産技術研究所の高木幹雄助教授に、色々と助言、御指導を戴いた。また貴重な資料や写真も数多くお借りし

た。写真に (JPL) とあるのは、JPL の研究成果であり、これらの写真は全て高木先生からお借りしたものであることを報告して感謝の意を表します。東京天文台の石田憲一、香西洋樹両氏からも写真の提供をいただいた。また以下の文献より写真や図版を転載させて戴いたことを付記し、併せて感謝致します。

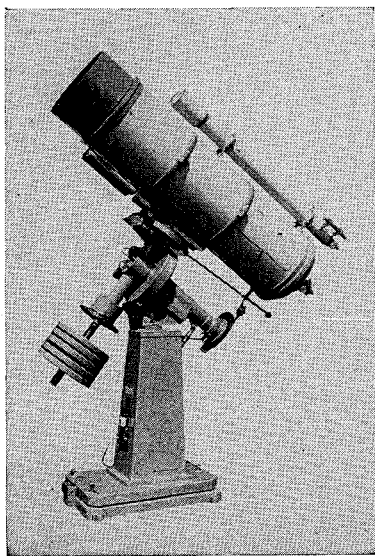
- 「電子計算機による画像処理」ローゼンフェルト著 石田晴久訳 (共立出版)。
- 「画像工学」滝 保夫他編。コロナ社。
- 「Composite Photography of Galaxies」Sharpless and Franz. PASP 75, 219, 1963.

雑 報

1974年6月20日の日食

1974年6月20日の西オーストラリア日食には、日本からもアマチュアを主体とした総員18名の観測団が、南部のウォールポールに出かけた。外国の専門家では、R. ジョバナリ博士らのオーストラリア本隊 (CSIRO) と、スイスの M. ワルドマイヤー博士の一行も、ウォールポールに観測陣を置いた。ペンベルトン、オーガスタ、ノースクリップなどでは雲の影響を受けることなく、理想的

な皆既日食を観測している。これに反し、最も多くの専門家と、日本からのアマチュアのグループが集まったウォールポールと、ウィンディ・ハーバーでは太陽の直前を覆った厚い雲のため、ほとんど観測不能であった。日本からのアマチュア観測団は、ウォールポールで2隊に分れ、近くのノエツとコンスピシャス・クリップに向った。ノエツでは第1接触は晴、第2接触の30分前から拡がり始めた雲のため太陽も見えないという状態であった。他方、コンスピシャス・クリップでは、第2接触の2分前から雲が太陽を覆い始めたが、ダイヤモンド・リングとコロナは、薄い雲を通して短時間ではあるが観測することができたようだ。(秦 茂・香西洋樹)



天体望遠鏡
ドーム、製作

西村製の天体望遠鏡

40 cm 反射望遠鏡の納入先

- No. 1 富山市立天文台
- No. 2 仙台市立天文台
- No. 3 東 京 大 学
- No. 4 ハーバート大学 (USA)
- No. 5 ハーバート大学 (USA)
- No. 6 台 北 天 文 台 (TAIWAN)
- No. 7 北イリノイズ大学 (USA)
- No. 8 サン・チェゴ大学 (USA)
- No. 9 聖アンドリウス大学 (ENGLAND)
- No. 10 新潟大学高田分校
- No. 11 ソウル大学 (KOREA)
- No. 12 愛知教育大学(刈谷)

606 京都市左京区吉田二本松町 27

株式会社 西村製作所

TEL. (075) 771-1570
691-9580